

小金井まちあそび

街は、遊びと学びの舞台

子どもも大人も、みんな遊ぼう

農工大からヤギさんも来るよ!



2019年7月20日(土)

13:00-19:00

小金井市・大久保農園

武蔵小金井駅北口から3分

入場無料

雨天中止



<http://machinoculturecafe.org>

東京学芸大 石井壽郎研究室
飲み物屋台など

街のおもしろ樹木医 岩谷美苗
木の実であわあわ体験

前原町のギャラリー とをが
こどもの村の小屋づくり

農工大のヤギさん

畑の泥んこ自由遊び場

[主催] まちのカルチャーカフェ・プロジェクト [共催] 小金井市観光まちおこし協会
[協力] 東京学芸大学、東京学芸大図書館カフェ note cafe [後援] 小金井市

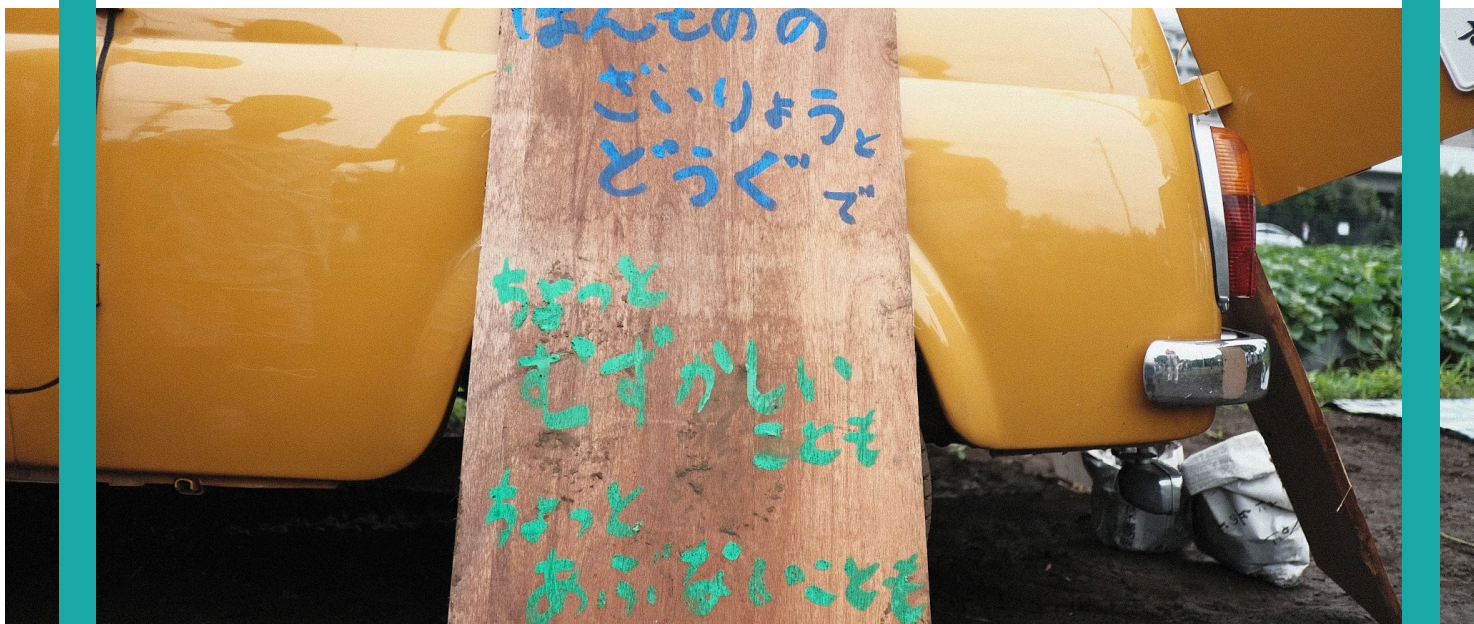


時は2019年（令和元年の方がいいのかな？）7月20日、所はJR武蔵小金井駅から徒歩3分の大久保農園。ここにてわれわれは「小金井まちあそび」を開催した。これまでの「まちのカルチャーカフェ」の出張版であるとともに、子どもたちの遊びも視野に入れた新しい試みである。

当日朝、まず驚いたのは、農園にスピーカーが据えられて音楽が流れ、市橋晴菜画伯の人型に切り抜かれた絵が設置されていたことである。いや、そのことに驚いたというよりも、その場がごく普通の農園でありながら（向こうの方にはサツマイモなどが植えられていた）、音楽と絵によって、きわめて現代的な空間に変貌しているように感じられたのである。世界は様々な可能性を隠しもっていると、あらためて思った。



その場では、「とをがギャラリー」のメンバーが、その日の準備をしていた。小屋作りが得意だという奇妙なグループで、来た子どもたちに小屋作りを指南するという。眼目は、すべて本物の大工道具を使わせるというところにある。刃がピカピカ光るノコギリなどが、次から次へと並べられていた。看板には「ほんもののざいりょうとどうぐで、ちょっとむずかしいことも、ちょっとあぶないことも、じぶんでやってみよう」と書かれていた。プロがここまで肚を据えて、子どもたちに接するのであれば、危ないことはまずあるまいと思ったものである。



しばらくすると、東京学芸大学から、私が「さすらいの屋台」と呼んでいる屋台が到着した。時々キャンパス内に、コーヒーを無料で提供する謎の屋台が出現するのだが、実は美術科の石井壽郎先生が、学生たちに、そうした場においてどのような交流が生まれるのかを研究させているのである。この日は、この屋台でジュースや、コーヒーや、ビールが提供されたのだが、想像した以上に、人々が集まっていた。



さらにしばらくすると、農工大からヤギの親子が届けられた。もともとは研究用のヤギで、都市の空き地などで、ヤギに雑草を食べさせてその効果を見るといった研究もされているそうだ。このヤギたち、到着するなり草をバリバリと食べ始め、食べること、食べること、その食欲旺盛なる様に、少々呆れながら見とれていた。あれだけ食べ続けて、胃はもたれないのだろうか。当日はこの親子が一番人気だったと思う。入口に立っていたら、大人にも子どもにもヤギはどこですかと、ずいぶん聞かれた。車椅子で来られた方の中には、どうしても触りたいという方もおられた。それだけ、来場者を喜ばせたヤギであったが、当人たちは気がついたかどうか。とにかくひたすら食べ続けていたのだから。



最後に学芸大学出身の樹木医、岩谷美苗さんが登場した。「あわあわ体験」をさせるという触れ込みであったが、何をするのかわからなかった人も多かったと思う。実はムクロジやサイカチの実を使って、石鹸を作る体験を子どもたちにさせたのだ。ペットボトルの中に実と水を入れて振ると、あわが生じ、石鹸ができるのである。日本では近代に入ってから使われていたということで、年配の人の中には、経験者もいらっ
しゃった。岩谷さんの石鹸談義はたいへん興味深いのだが、子どもたちにとっては、あわがペットボトルの中で、ブクブクと生まれることの方が、よほどおもしろかったようである。



会場は農園の持ち主である大久保勝盛氏が快く貸してくれた。JR中央線の駅にこれだけ近い所に農地をもち続けることは、氏の心意気を示していると言ってよいだろう。収穫後の黒々とした地面で思い切り遊んだり、残ったジャガイモを掘ったりすることも認めてくれた。しばらくすると、会場をはだしで走り回る子どもが何人も出てきて、本当に楽しそうであった。あれだけ多くの子どもたちが、泥だらけになって遊びまわる様子は、久しぶりに見たと思う。午後も後半になると、子どもたちの歓声と、小屋作りをする金づちなどの音が、懐かしく会場に響いていた。うまく言えぬが、この場を体験すること自体が、意味のあることだったのでなかろうか。



暗くなってきて、参加した人々が（ヤギも）三々五々帰っていくのを見送りつつ、「きょうは200人ぐらい来たかなあ」と言ったら、「そんなものじゃあないでしょう」と言われた。ええい、主催者（われわれのことだ）発表で、500人集まったということにしてしまおう！

これからの都市における緑地。これからの郊外。これからの学び。「小金井まちあそび」は、そんなテーマへの考察を深めるきっかけにもなればと考えている。とはいえ、ひとまず楽しかったですね！みなさん、またお会いしましょう！

藤井健志

東京学芸大学教授・元副学長／まちのカルチャーカフェ主宰・マスター

東京学芸大図書館カフェnote cafe 発起人













